

宇士市立鶴城中學校三年

坂	田		瑞	希
---	---	--	---	---

また、三歳から水泳を習っていったので、すか

授業で泳ぐと「泳げるんだ？」「凄いい」と言
られることもありま。新しい出会いをする
たびに自分かすでましていること。称賛さ
れることが多いのです。その言葉も聞くたび
に「なんで普通のことさしているだけなのに
私だけ褒められるのだろう」と複雑な気持ち
になります。見た目で判断しないでほしいと
思うけれど、面と向かっでは言えません。そ
れも言葉にすること。どう思われてしまう
のか怖いという気持ちがあるからです。
また、教室の中での友達同士の関わり方で
も気になることがあります。ある友達に対し
て、平気であだ名で呼んだり、相手の都合も
考えず「パソコン取ってきて」「コンパ貸
して」などいろいろなことを頼んだりしている
場面を見ることがあります。明るく優しい人
なので、この人ならば何を言っても許してく
れるだろうと思っっているのか、過度ないじり
まされていようような気がするのです。
人は、見た目で判断してしまいう生き物です。

「こうに違いない。」「こうあるべきだ。」とい
うフィルターを通して相手を見てしまいかち
だと思えます。そのフィルターが曇っている
とは微塵も思っていないのです。その曇りを
とるには、その人のことをよく見ること、話
をして知ることにしかないと思えます。しかし
知るには時間がかかります。私自身、友人が
ら相談を受けて話をしたことでその人が本当
に苦手としていたり、ことを初めて知り、同じ出
来事でも受け止め方が違うのだと実感しまし
た。関わることでその人の輪郭がはつきり
してきたのです。私の固定概念のフィルター
が外れた瞬間でした。しかし、出会い、たばか
りの人がどんなことを頑張っているのか、と
んなことを苦手としているのかは判断がつか
ないものです。では、どうすればいいのでし
ょうか。その人に出会う前に多くの人と交流
し、様々な価値感や違いがあることを受け止
めることが必要だと私は考えます。人は一人
ひとり名前があるように、違っているのです。その

違いがその人の個性だと感じます。
小学五年生の時の入権学習で「自分の本音を語ろう」という授業がありました。「人と違う自分が嫌いだ」とできないことが多い自分が嫌いだとみんなの前で自分の本音を初めて発表しました。見た目だけで毛嫌いされてきた過去があり、発表したことでどう思われるか怖かったです。さりした自分がいるか怖かったです。障かいは、個性だよ。その個性を瑞希ちゃんはなくしたいと思ってるけど、それが無くなったら瑞希ちゃんじゃなくなる。と言ってくれた友達がいきました。その言葉に心が軽くなり、自分を認められる自分が生まれるきっかけになりました。発表した後からクラスの友達からの過度な支援はなくなりしました。「個性だ」と言ってくれた友達は今でも過剰な手伝いはしません。私がサポートしてほしいとき頼むと、自分のすべきことを止めてでも手伝ってくれます。私の意見を尊重し、できることを取り上げることはありません。

フ
セ
ン
。

あなたは見たい行動による判断を
して

い
ま
せ
ん
か
？
そ
こ
に
固
定
概
念
も
い
う
フ
ィ
ル
タ

ン
 か
 か
 か
 っ
 て
 い
 ま
 せ
 ん
 か
 ?
 そ
 の
 フ
 イ
 ル
 タ
 ー
 を

通して見るにと下相手の個性をたぶすにとに

も
な
り
か
ぬ
な
い
の
で
す。
宇
土
市
の
花
で
あ
る
紫

陽花もよく見ると同じ株から出た花でも色や

大
き
さ
か
違
い
ま
す。
違
う
か
ら
こ
そ
美
し
さ
が
光
輝

く
の
で
す。
違
い
は
個
性
。
フ
ィ
ル
タ
ー
を
外
し
た

世界をこ
れからあ
なたとと
もに作っ
ていきま
す

い	で	す	。
---	---	---	---

き	み	か	き	み	で	あ	い	る	よ	う	に		ほ	く	は	何	か
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

で
き
る
の
か
な

間
違
え
た
っ

て
い
い

不
安
定
な

ま	ま	でい	い	い		い	っ	か		い	っ	か		太	陽	も	顔	を	出
---	---	----	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---

す
か
ら
に